

●エルガー 愛のあいさつ Op.12

エルガーは、音楽を愛する両親の影響と教育によって、音楽と文学への強い愛情を育んでいきました。経済的には恵まれなかったものの真摯な音楽への愛情と地道な努力・研究によって、自身の音楽性を深めていった作曲家です。彼は29歳の時にキャロライン・アリス・ロバーツという弟子を取りました。後に彼女はエルガーの妻となります。1888年、婚約の贈り物として「愛のあいさつ」を捧げたのでした。

全体はA（ホ長調）-B（ト長調）-A'（ホ長調）の3部形式で、最後にコーダが置かれています。四分音符と八分音符の組み合わせによる平易な旋律と和声進行で構成されていますが、音型の上行、下行を逆転させたり、シンコペーションのリズムに重きを置く部分を動かしたりといった細かい工夫によって作品に豊かな色彩と甘美な表情を与えています。

●モーツァルト ヴァイオリンソナタ k.376

2年近くにも及んだマンハイム、パリ旅行を終えてザルツブルクに帰郷したモーツァルトは、ザルツブルクを去ってウィーンに定住することになりました。このヴァイオリンソナタはウィーンに定住した直後の1781年に作曲されたもので、それ以前に作曲されたヴァイオリンソナタと比べて、ヴァイオリンのパートの役割が大幅に増大しています。また明るくギャラント風な雰囲気支配されており、ウィーンに移ったモーツァルトの気分や意気込みを反映しているかのような作品になっています。

第1楽章 アレグロ

2つの主題をもつソナタ形式ですが、これ以外にも多くの主題が用いられており、それらがピアノ的な性格を示しています。

第2楽章 アンダンテ

自由な三部形式で構成されたロマンス風の緩徐楽章です。

第3楽章 ロンド（アレグレット・グラツィオーソ）

ロンド形式によるフィナーレで、陽気な行進曲風の主要主題と2つのエピソードを中心にして構成されています。

●クライスラー 美しきロスマリン

オーストリア出身の作曲家でヴァイオリニストのフリッツ・クライスラー(1875-1962)が作曲したヴァイオリンとピアノのための作品です。7歳でウィーン音楽院に入学し、10歳にして首席で卒業。その後パリ国立高等音楽院に留学し、12歳にして首席で卒業という神童ぶりを発揮したクライスラーは、その翌年の1888年からヴァイオリニストとしてのキャリアをスタートさせ、20世紀前半を代表するヴァイオリニストとして名を馳せています。

この作品は愛の喜び、愛の悲しみと3曲セットで取り上げられることも多い作品で、タイトルのロスマリン（ドイツ語）は英語で言うローズマリーです。ハーブとしても用いられる植物の名前ですが古代ヨーロッパでは神秘的な力をもつと言われ、「貞操」「変わらぬ愛」の象徴とされていることから女性の名前としても使われることが多いようです。タイトルのニュアンスとしては美しい女性の象徴として捉えた方が良さそうですね。

●ポルディーニ（クライスラー編曲）人形の踊り

ポルディーニは、ブダペスト生まれのイタリア系ハンガリー人の作曲家。童話を題材にした子ども向けのオペラや歌曲、合唱など数多く残しましたが、世界的に知られているのは、「人形の踊り」だけです。ピアノ曲として作曲され、バイオリンの名手、クライスラーが編曲しています。

●ピアソラ アディオス・ノニーノ

1959年、ニューヨークで不遇の活動を送っていたピアソラは、プエルトリコに巡業中に最愛の父ピアンテ（愛称ノニーノ）死去の知らせを受け取ります。彼は、当時住んでいたニューヨークに戻ると一人、部屋にこもり、この美しいレクイエムを書き上げました。この曲は生涯の代表作となり、彼自身あらゆる機会演奏してきました。

●ピアソラ エスクワロ（鮫）

1979年、ピアソラが避暑地で休暇中に作曲され、五重奏団により録音された新曲です。当時、彼の趣味であった「鮫釣り」にちなんだものであり、突然の休符やリズムで鮫が襲ってくる動き、スリル、躍動感が表現されています。「私の中の凶暴性が、鮫に対して鬱憤を爆発させた」と自身が語っているようです。

●プロコフィエフ バレー組曲「ロミオとジュリエット」より

プロコフィエフは、ロシアの作曲家、ピアニスト、指揮者。数多くの傑作を残したことで知られており、20世紀の大作曲家の一人です。

・前奏曲

若い二人の愛を凝縮した詩情豊かな前奏曲。「愛」「優しいジュリエット」「雄々しいロミオ」の順に提示される三つの主要主題は、2人が絡む場面で何度も登場します。

・少女ジュリエット

舞踏会を前にした控えの間でのジュリエットの揺れる気持ちをを描いた曲。

・騎士たちの踊り

舞踏会の場での騎士たちによる威圧的で重々しい踊り。「ロミオとジュリエット」といえば、まずこの曲を思い出すほど印象的な曲です。

・バルコニーの情景

舞踏会の後、バルコニーでロミオとジュリエットが静かに愛を語る場です。説明がいらぬ有名な場面ですね。

・五組の踊り

ヴェロナの町の広場で芸人たちがカーニバルを盛り上げるために踊る音楽。

・マキューシオ

・決闘、ティボルトの死

親友マキューシオを殺されたロミオがティボルトに決闘を申し込み、殺してしまう場面。全曲中特にドラマティックで、よく知られた音楽です。急速なテンポでスリリングに演奏される前半と重々しく演奏される後半の対比が非常に劇的です。

●プーランク ヴァイオリンソナタ

この曲は1942年から1943年にかけて作曲されました。1936年に殺害されたスペインの詩人フェデリコ・ガルシア・ロルカを偲んで作曲されました。

第1楽章 Allegro con fuoco

第2楽章 Intermezzo

第3楽章 Presto tragico